

東邦キャンパス

平成 27 年 (2015 年) 1 月 27 日

発行 学校法人 東邦学園

〒465-8515 名古屋市名東区平和が丘三丁目11番地

TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

H P click 検索 愛知東邦大学
東邦高等学校



写真提供：stagelife

米ローズパレード 高・大の吹奏楽選ばれる

米国で120年余の歴史を誇るパレード「ローズパレード」に、東邦高校の吹奏楽部と愛知東邦大学の吹奏楽団が選拔され、来年元旦にカルフォルニア州・パサデナで演奏行進することになりました。衛星放送で世界4億5千万人が楽しむ屈指の規模。米国でも数百団体のうち10団体ほどしか選ばれず、日本・アジアからは東邦が唯一の代表という栄えある出場です。上の写真は1月に愛知芸術文化センターでマーチングを披露した高校吹奏楽部ですが、1年後は世界中をステージにした大パレードを繰り広げます。(15ページに関連記事)

おしゃれな知的空間「L棟」開館

右の写真は、昨年12月に開館した愛知東邦大学のラーニングcommons(L)棟です。図書と情報機器を備えています。おしゃれでアクティブな知的空間です。(4ページに関連記事)





年頭所感

「平和」の担い手を 一戦後70年の節目に



東邦学園理事長 榎 直樹

2015年を迎えました。皆さんは今年をどんな年になるとお考えでしょうか。

第二次大戦終結から70年であり、「平和」に関する様々な議論が始まっています。日本にとっては「終戦（戦後）70年」ですが、米・英・旧ソ連など旧連合国は「対ドイツ戦勝利」、中国は「抗日戦勝利」、韓国は「光復節」の70年を強烈にアピールするでしょう。

ナショナリズムを煽り、力任せで資源や市場の争奪に国がぶつかり合う時代、平和な世界をどう築いていくか。パリの新聞社を銃撃したあまりに無慈悲な過激派の行動も、異なる宗教、人種、民族への理解と寛容

さ、表現の節度を問うことにもなりました。

教育の使命は、一言で表せば「人づくり」ですが、生徒・学生は「平和な世界の担い手」であってほしいのです。日本にいても世界を理解し、肌の色や文化の違いの中を越えて縦横に行き来できる人材を輩出する学園でありたい――。

愛知東邦大学は経営学部国際ビジネス学科を来春新設するため、文部科学省への手続きを進めています。東邦高校では、グローバル人材の養成充実に向けて、先進校を視察し具体案作りを始めています。

深いご理解とご協力をお願いいたします。

2016年4月 大学に国際ビジネス学科開設(構想中)



愛知東邦大学学長 成岡 良一

2016年度に新しく経営学部国際ビジネス学科を設置しようと構想し準備しています。経営学部は従来の地域ビジネス学科に加えて2学科となります。

国際ビジネス学科はアジア地域でのビジネス展開を見据え、グローバル人材を育成します。まず経営学を基盤とした国際経営の学習が基礎となります。それに

加えて次の二つの柱があります。

一つは国際コミュニケーション能力の育成です。異文化に属する人たちとどのように意思疎通を図るのか。多文化の理解とコミュニケーション方法を身につけます。とりわけ英語は重要な役割を果た

します。2年生までに集中して英語力を訓練します。

もう一つは国外での現場体験です。学生は海外インターンシップや留学に参加します。現地の生活や活動を体験することで大きく成長することでしょう。

経営学部は新しい分野に向けて発進します。

1年生(後期) 1週間の時間割(例)

	月	火	水	木	金
1時限	基礎演習Ⅱ	経営学Ⅱ		簿記Ⅱ	
2時限	基礎コンピュータ	ReadingⅠ	WritingⅠ	ReadingⅠ	WritingⅠ
3時限	Speaking & ListeningⅡ		Speaking & ListeningⅡ		東南アジアの文化と社会
4時限	企業とグローバル人材	GrammarⅡ	日本語表現Ⅱ	GrammarⅡ	
5時限				情報倫理	
6時限					





高校美術科 初のパリ修学旅行

東邦高等学校校長 長沼 均俊

生徒諸君が初の欧州への旅で得たものは、計り知れないほど大きいものと思います。花の都パリを満喫した市内観光、ルーブルやオルセー、ポンピドゥー等美術館での作品鑑賞、ゴッホ終焉の地オーヴェール・シュル・オワーズではスケッチに時間を費やしました。また、伝説的な芸術家たちが通った伝統ある美術学校グランショミエールでは素描の授業を体験。そして、この旅をより意義深いものにしてくれたのはユネスコ本部への訪問です。芸術文化の香り高い空間の中で耳を傾けた講話には、人間の尊厳を重視する姿勢が貫かれていました。平和は、私たち人間のこのころの問題なのです。今年ユネスコスクールに加盟した本校にとって、目ざすべき方向性を改めて確認できる良い機会となりました。4泊6日の行程は瞬く間に過ぎましたが、いつまでも心に残る素晴らしい経験の連続でした。(旅行期間：2014年11月6日～11月11日)



ラーニングコモンズ棟完成

多彩なプログラム披露の場に

大学に新しい校舎が完成し、12月1日(月)からオープン。愛知東邦大学のラーニングコモンズとして、活用されています。

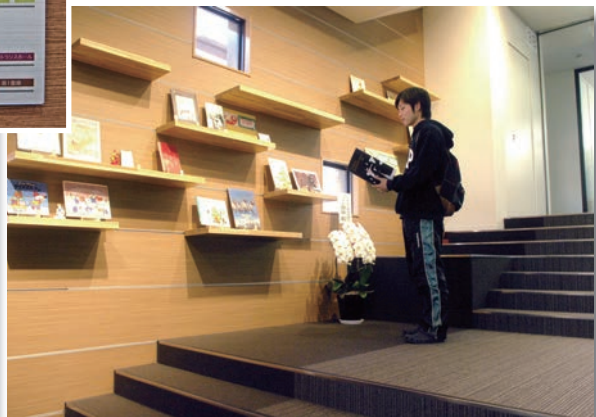
12月6日(土)に新棟完成記念講演会を開催しました。

雪が舞う寒い日となりましたが、今津教授による「メディア・コミュニケーション時代と私たちスマホ文化と活字文化―」の講演には、最上階のＬＣホールが一杯になるほどの多くの方に参加いただきました。その後、吹奏楽団による演奏が行われ、御岳山まで見渡せる眺望が開けた窓からの景色と美しい音楽が会場内の雰囲気を盛り上げました。

開館後は「たっちゃんの紙芝居」や「クエストカップ東海大会」などイベントが催され、地域や高校生も参加しています。

また、毎週、専任教員による連続講座「DKK30(大学教員が語る30分)」が昼休みに行われるなど様々な活動が繰り広げられています。

ぜひ、お立ち寄りください。



当時の同級生、他校の校長も参列し、おごそかに



今年も東邦学園『慰霊の日』を迎えました。1944年12月13日、森常次郎先生と村松俊雄先生、そして20人の生徒が勤労働員として派遣されていた三菱重工業名古屋発動機製作所大幸工場で米軍の空襲を受け、夢も希望も一瞬にして奪われてしまいました。

あの日からちょうど満70周年です。この記憶を深く刻み直したいと、12月13日（土）に合同慰霊祭を行いました。同級生「辰巳会」の方々、名古屋市長河村たかし様、三菱重工業名古屋誘導推進システム製作所の菅野英嗣・総務勤務課長様、東邦商業と同じく犠牲を出された愛知高校の松本正孝校長様、桜花学園高校の本田正美校長様、さらに遠路奈良県立畝傍高校同窓会の北吉茂矩事務局長様など、多数お越しいただきました。

空襲を振り返ります。間もなくの時刻・午後1時45分、「警戒警報のサイレンなしで、空襲警報がいきなり鳴り出した」そうです。生徒が逃げ込んだのは昼夜勤の合間に掘った半地下、防空壕とは名ばかりのお粗末な場所でした。頭上をB29の爆弾が襲い、名古屋の学校を中心に集められた多く生徒や教職員が犠牲となりました。



戦争の惨禍を二度と引き起こしてはならない——。日本国民は、歴史の痛みを重く抱えて戦後を過ごしてきました。しかし現在の国際情勢や社会の複雑な意識は、私たちの決意を国の内と外から揺るがす事態となっています。

70年前もし爆弾投下場所が少しずれていたら命が無かったという卒業生・伊藤幸一さんが、「最も悲しかったのは、勉強をできなかったことだ」と。勤労働員先には教科書すら持ち込むことを許されず、「神風」と染め抜いたハチマキを巻いて、働かされたそうです。

この言葉に、教員は教える役割、生徒は学ぶことに、どこまで真剣に向き合っているだろうかと、反省の念を覚えます。平和は単に享受するだけで終わってはなりません。異なる人種や民族、多様な文化や宗教を進んで理解することができる人材を育てていくこと、それが教育機関を預かる者の使命であることを改めて自覚し、皆さまへの追悼と誓いの言葉といたします。

東邦学園 理事長 榊 直樹(追悼の言葉より)



高校の行事

一丸となって取り組んだ 体育祭と文化祭

生徒会正顧問 水谷 光博

昨年9月30日(火)の体育祭は、80m走、団対抗リレーなどの競技・レク種目や台風の日、大縄跳び、綱引きなどの団体種目、また、1年生から3年生まで力を合わせ、彩のある衣裳での応援合戦、そして、伝統の1年生全員による花笠踊りとマスゲームは動きがありました。観客の集中度も高く、ピラミッドや塔のあたりで大きな歓声があがりました。生徒たちは大いに力を競い合い楽しんでいました。



9月26日(金)・27日(土)文化祭は、テーマ「Toho×World wide～東邦よ、世界を抱け～」を掲げ、展示バザー、舞台、模擬店、教室パフォーマンス、クラブ発表、有志バンド・ダンス、PTA・同窓会企画などを通して、仲間と力を出し合って、1つのものをつ

東邦高等学校卒業制作展を終えて

美術科教諭 加藤 広士

2014年度商業科GDデザインコース・美術科3年生の卒業制作展「第22回未来の芸術家たち展」が10月21日から26日に開催されました。

今回は、名古屋市博物館にて開催し、総勢1202人のお客様にご来場ご高覧賜りました。作品の搬入、中学生対象の卒業制作展鑑賞ツアーの実施、作者によるギャラリートークの実施、武蔵野美術大学の原一史教授と白井敬尚教授によるご鑑賞とご高評、搬出まで、盛況のうちに無事終えることができました。

卒業制作は、高校3年生の作者自身の理想に対し、高い緊張感と不安や迷いを伴った努力を要求されており、作者の成長の糧となる作品です。周囲の好評を得

くりあげる喜びを実感することができました。

今年は、展示企画やバザー企画において観客参加、体験型となる



ような工夫が凝らされた企画が多く、落ち着いた雰囲気の中で生徒たちが生き生きと活動する姿が印象的でした。

学園祭本部企画としては、オープニング行事の中で、「文化祭クラス企画アピール」が希望クラスの出演を取り入れて行われて好評だったほか、2日目中庭で本校生徒と教職員の出演により行われた「ペアで協力！タッグマッチクイズ！」は、日本や世界の文化について知り、自分たちの未来を考えていこうという企画でした。

東日本大震災支援スタディツアーに参加した生徒による自主制作アニメーションを用いた展示もあり、社会的な関心事にもチャレンジをしました。

本校の文化祭では、伝統的に模擬店やバザーの売り上げを社会に役立ててもらうことにしており、ユニセフ、WF P、東日本大震災支援ワンコインサポーターの愛知ボランティアセンター、愛知私学奨学資金財団、戦争と平和の資料館ピースあいちなどへの募金としており、沖縄ひめゆり平和祈念資料館へは修学旅行の2年生が募金を届けています。

られた作品に限らず、高い理想に挑戦した作品、未消化ながらも自身の現実的な難題と向き合った作品が並び、熱量の高い会場となりました。

保護者の皆様、名古屋市博物館の皆様には多方面に渡り多大なご協力を賜りました。深く感謝申し上げます。



多様な国際交流の場を提供

国際交流室長 伊藤 保憲

今地球は多様な文化が混在し、新たな文化や価値観が生まれています。同時に地球をめぐる問題は複雑化し、一個人、一国民、一国家だけでは解決できないまでにグローバルなものになっています。今ある地球上の大切なものをいかに次の世代につないでいけるかどうかということこそ、この地球をめぐる今日的な課題ではないでしょうか。

今年度4月に、本校はユネスコスクールとして認定されました。ユネスコスクールとは、地球上の環境やエネルギーなどをはじめとする大切なものを次の世代につなぎ、ユネスコ憲章に掲げられた国際平和の理念を実現するために、様々な実践をする学校のことです。

地球をめぐる様々な課題解決のためには、高いコミュニケーション能力が必要だと言われています。コミュニケーション能力とは、単に言語力を意味しているわけではありません。文化、価値観、考え方の違いを乗り越え、多様な意見を受け入れる考え方の柔軟さと優しさ、一方では、論理的批判的思考から、明確な意見を発信し、地球市民がともに平等な立場で新たな価値観を生み出すとともに、一緒に課題解決できる力だと思います。



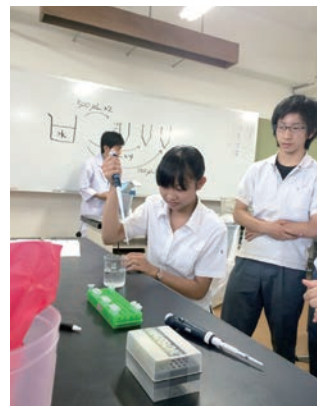
こういったコミュニケーション能力が求められる時代、東邦高校は多様な国際交流の場を作りたいと考えています。姉妹校とはテレビ会議システムを利用して討論をします。姉妹校のみならず多様な国々の高校生との交流の場を提供しています。

国際交流教育の本来の目的は、異文化に触れることで地球上の多様な「違い」を知り、それを乗り越えることで、相互理解を生み出すことだと考えます。そしてそのことは、ユネスコ憲章に掲げる「平和」の実現への一歩であるに違いありません。

文理特進コース サイエンスパートナーシップ プロジェクト

文理特進C責任者 稲葉 益夫

2007年より高大連携授業であるサイエンスパートナーシッププロジェクト(SPP)に取り組み始めて、8年目を迎えました。今年も岐阜大学応用生物科学部に企画をお願いし、通算で9回目の実施となりました。



今年度は、昨年実施した岐阜大中川先生の実験実習が大好評であったため、ひきつづき依頼をしての連続実施となりました。他にも柳瀬准教授、7人の大学院生もお手伝いをしていただき、スモールグループラーニング、ディスカッションを行うなど、たいへんきめ細やかな対応をしていただきました。実施内容は、オワンクラゲの緑色蛍光タンパク質の遺伝子が組み込まれたプラスミドDNAを大腸菌に導入し、プラスミドを取り込んだ大腸菌が「光る」性質を獲得する様を観察するというものです。

最近発表された大学入試改革でも、このような体験学習を重視する傾向が強まっており、SPPの価値はさらに高まってくるものと考えます。連携先をいかに確保できるかが大きな課題です。

名東区ゆるキャラデザイン制作

キャリアセンター 池田 睦生

高校の美術科・商業科グラフィックデザインコースの生徒が藤が丘中央商店街振興組合からゆるキャラの制作依頼を受けました。2015年2月に区政40周年を迎える名東区の記念事業の一環です。

1、2年生の生徒10人が、藤が丘や名東区をイメージしてデザインをしました。どのデザインも個性豊かでありながら、ストーリーのある作品で、商店街の理事をはじめ名東区役所や名古屋市の担当者を前に作品に対する思いを一生懸命プレゼンテーションしました。

本校の生徒がデザインしたゆるキャラが名東区を盛り上げられるようなキャラクターに成長することを願っています。



大学の行事

愛知東邦大学 和丘祭を振り返って

人間学部人間健康学科3年 長谷川 健司

昨年11月8日(土)9日(日)に開催された愛知東邦大学「和丘祭」に、学生会長として携わらせていただきました。今大学祭を振り返り、この場をお借りして少しでも多くの方にこの思いを伝えられたらなと思います。

大学祭に向け、学生会が活動を始めたのは7月の下旬でした。先輩方の背中を追っていただけの今までとは違い、今年は私たち3年生が先頭に立って大学祭を創り上げるという決意を抱いたのもこの時期でした。

夏休みに入り、大学祭のミーティングを兼ねたキャンプをしたり、休み明けには業者の方との打ち合わせを重ね、ポスターやパンフレットの作成を開始すると同時に、ステージイベントの企画考案、当日スケジュールの作成をしたりと、活動内容を挙げるとキリがありません。さらには今年の大学祭が通算50回目ということに対する期待の目、プレッ



シャー、純粋な不安、そういったものが混ざり合う中で、とても貴重な経験をすることができました。

これらを経て、当日を迎えたときのあの高揚感、フィナーレに差し掛かったときのあの感動、ありきたりな言葉になってしまいますが、本当に最高の大学祭でした。

そこには地域の皆様、教職員の方々、業者や機材など関係者の方々、本当に沢山のお力添えや支援があって成功に繋がったのだと思います。この場をお借りしてお礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

インターンシップ

就職委員会 手嶋 慎介



本年度のインターンシップでは、経営学部地域ビジネス学科16人、人間学部人間健康学科9人、計25人の3年生が2週間実

習を行いました。特に本年度は教育連携をしている「株式会社名古屋グランパスエイト」で初めて3人の学生が実習を行い、試合でのサポートやスクールキャンプへの引率など、大学の授業などでは決して得ることのできない貴重な経験をさせていただくことができました。他にも名東区役所や旅行会社など、多方面にわたる事業所でお世話になりました。

2週間という短い期間ではありましたが、実習を

行った学生は社会で働くことがいかに厳しいものか、自分のこれまでの意識がいかに甘かったかをそれぞれ痛感したようです。今後はこの経験をこれから始まる就職活動で大いに活かし、1日も早く全員が希望している進路に就くことを期待しています。

経営学部 愛知学院大学との討論会(ディベート)

経営学部地域ビジネス学科助教 寺島 雅隆

経営学部地域ビジネス学科3年の寺島ゼミでは、愛知学院大学経営学部3年の鶴飼ゼミと討論会(ディベート)を開催しました。昨年11月



全体討論風景

29日(土)15時より3時間、大学会議室にて行いました。

テーマは「若者は、安定よりリスクをとってベンチャー企業で働くべきか？」であり、本学の立場はNO、先方の立場はYESでした。寺島ゼミ10人に対し、鶴飼ゼミは17人でした。

1週間前には報告要旨を取り交わし、A4・2枚に論旨をまとめました。本学では、先行研究を整理し、仕事は生活基盤であり、不安定な会社を選ぶべきではないと結論づけました。

当日は、先方は大企業に勤めているからといって安定ではないと主張し、自分の能力を最大限に伸ばせるベンチャー企業で働くことによって、



最中の愛知東邦大学作戦会議

転職や起業へとステップアップすることが可能だと論じました。それに対し、本学ではその能力はなんであるか不明確であり、大企業等において社内ベンチャーを考えたほうが資金面を含め、成功の確率が高いのではないかと反論しました。有意義な対話の中で、仕事とは何か、働くとはどういうことかを深く考える機会となりました。

教職課程 卒業生が語る教職

教職課程委員会 照屋 翔大

教員免許を取得するにあたり、昨年度より新たに導入された「教職実践演習」という科目があります。この科目は卒業を間近に控えた(つまり、入職を目前にした)4年生が対象の科目で、免許取得に向けた総まとめとしての意味を持っています。その授業の一環として、学校現場で勤務している卒業生を講師として招き、若手であるからこそ直面している仕事の難しさや在学中に身に付けておいてほしい力などについて



話をしてもらう企画を実施しています。卒業生という身近な存在の経験を通して、自身の数年後をイメージし、そこに向かう

上での課題を明確にすることが、この企画の意図です。今年度は、勤務地や校種の異なる2人の卒業生に講師をお願いしました。さすがに第一線で奮闘する彼らの言葉は熱くまた重みがあり、学生だけでなく参観した教員たちも引きこまれるほどでした。彼らの堂々とした姿は在学生にとってよい道標になったことでしょう。

子ども発達学科 とだがわこどもランドとの共催イベント

教育学部子ども発達学科准教授 伊藤 龍仁

子ども発達学科では児童福祉の現場をフィールドとして、社会的養護や子ども・子育て支援についての理解を深めながら、卒業後に学生が保育者となるために必要な、コミュニケーション能力や実践スキルの獲得と資質の向上を目指しています。

昨年11月15日(土)に伊藤(龍)ゼミでは、名古屋市港区にある「とだがわこどもランド」の共催事業として、「カラーパラバルーンであそぼう!」というイベントを実施しました。



挨拶と説明

当日は朝から受付に行列ができ、13組26人の親子の皆さんが参加してくれました。このイベントは、3年生5人が7月頃から打ち合わせを重



きれいな空が見えました!

ね、こどもランドの職員と協力して実施したものです。この「カラーパラバルーン」は、カラフルなビニールの大きなバルーンを使い、2歳児を含めた小さなお子さんから幅広い年齢のこどもがグループで取り組める楽しいあそびです。でき上がったバルーンが波打ったり浮かび上がったり、バルーンの中からカラフルな世界を見上げたりして歓声が上がるなど大好評でした。こどもランドのスタッフからも「大成功でしたね」とのご講評をいただき、取り組んだ学生には満足感が感じられました。

自分たちのジーンズを創ろう!!

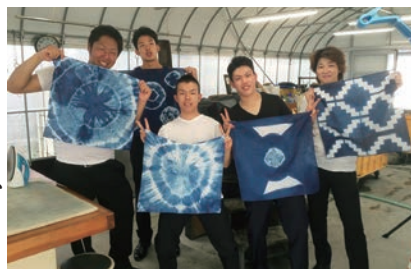
—「絆のデニム」プロジェクト—

経営学部地域ビジネス学科教授 上條 憲二

「東邦プロジェクト」とは、大学と地域が連携して新しいことをしよう!というプロジェクト。メンバーみんなで、「地域のために、自分たちができることは何だろう」と考えました。そこで生まれたアイデア。「地域の企業、人、そして学生を結びつける絆の象徴を創ろう」。

こうして始まった「絆のデニム」プロジェクト。し

かし、どこからどう始めたらいいか、全く知識がない。夏休みに、ジーンズの聖地・岡山県の



児島を訪ね、基本知識を勉強。大学では、授業以外にも集まって、製品の作り方、販売方法検討など、まるで会社のように活動しています。いつか、自分たちのオリジナルジーンズを完成させるために。

寄付金付き自動販売機企画

経営学部地域ビジネス学科准教授 手嶋 慎介



この取り組みは、地域ビジネスの実践として「寄付金付き自動販売機」の設置と企画を、履修学生8人とNPO法人寄付型自販機推進機構(KJSK)との協働によって行われたものです。当初は設置までは至らないものと思っていましたが、学生のご両親のご協力を得て岡崎市に設置することができました。

飲料メーカーさんなど関連企業の方々10人以上を前にした、学生による熱いプレゼンテーションの結果、アサヒ飲料(株)さんにより最新型の超省エネ自販機を供給いただくことができました。寄付金ボタン(10円、50円)の取り付け、オリジナルデザインにより大学をPRするなど、他大学には見られないプロジェクトとして終結しました。今後も、新規設置を目指して「東邦オリジナル自販機」の企画開発を、後輩学生へとバトンタッチしながらプロジェクトを継続していく予定です。設置場所のご紹介などを通し、学生の学びの支援をよろしくお願いいたします。

子どものサッカー支援

人間学部子ども発達学科4年

田中 葉月 塚本 奈々
西本 あみ 本村真梨奈

私たちは「専門演習Ⅲ・Ⅳ」(矢内ゼミ)の授業の中で近隣のM幼稚園へ隔週10回(5・6・10・11・12月)訪問しながら、幼児(3・4・5歳)がボール遊びへの興味や関心が持てるようにサッカー支援をしました。子どもたちと触れ合う中で、年齢や発達段階を踏まえながら子どもが主体的にボール遊びを楽しめるメニュー作りや、意欲を高める言葉かけを学んでいます。

また、卒業論文のテーマとして、「幼児の発達に応じた運動あそび～ボール遊びからサッカーへ～」と題して、メニューを組む中で「蹴る」・「止める」能力を中心に観察しています。ほとんどの子どもがサッカーを経験したことがなく、最初はボールあそびを楽しんでいるだけでしたが、徐々にサッカーを楽しんでくれるようになっていきます。「蹴る・止める・運ぶ」というサッカーに必要な技術が身に付いていく様子や、子どもたちの成長だけではなく、私たち自身が子どもたちへの援助、わかりやすい説明の仕方、言葉掛けの知識なども増えていると感じています。卒業後もこのような機会を見つけて、子どもたちと関わりたいと思っています。



第2回トーくん、ホーちゃん杯争奪戦 ドッジボール大会の企画・運営

経営学部地域ビジネス学科3年 鈴木 貴大

2014年8月9日、台風の直撃が心配されましたが、本学体育館にて第2回トーくん、ホーちゃん杯争奪戦ドッジボール大会を開催することができました。大会には、オフィシャルの部19チーム、ジュニアの部11チーム、総勢約600人の子どもたちが参加をしました。

当日は、実行委員のメンバー以外に、名古屋市ドッジボール協会の



審判団、ボランティア学生の協力を得ながら、運営を行いました。子どもたち

の元気で活気あるプレーは会場をわかせ、また、大人顔負けのボールを投げる子どももあり、私たち学生は大変驚きました。

この大会を成功させるために一番苦労したことは、協賛金を集めることでした。企業の方々に、自分たちの言葉で説明し、協力を得ることは大変苦労しました。しかし、学生の間に、実際に企業の方と直接話をし、貴重なお金をいただくことができた経験は、今後、社会に出たときにいかされると思っています。

私たち実行委員は、昨年よりもよい大会にすることを目標として掲げ、パンフレットの作成や抽選会など新たな取り組みを行いました。チーム関係者の方々からは、この2点について高い評価をいただき、成果があったと感じています。しかしながら、多くの課題もみられ、今後、この課題を解決しながら、大会を継続し、伝統あるドッジボール大会にしていきたいと思っています。

2014年 夏期 東北支援ボランティア活動参加報告会

人間学部人間健康学科教授 宗貞 秀紀

2014年10月22日（水）の昼休み時間を利用してA棟101号室において、東北支援ボランティア活動参加報告会が開催されました。「ボランティアサークルCOCORO」のメンバーによる自主開催行事として行われました。一年次から東北支援に毎年参加している学生や、今年初めて参加した学生の支援活動報告に耳を傾けて、災害状況を身近にすることと今後の自然災害にも減災の備えを心がけようというものでした。

主な内容は、被災地映像・活動写真を交えた報告でした。人間健康学科2年生水野孝紀くん。大学生協東日本大震災支援（38チーム）参加。同学科3年生玉井杏さん。中西佑紀さん。岡本早葵さん。（いずれも40チーム）参加の皆さんからでした。

1月14日には「忘れてはいけない3.11」と題して、東北支援のための集いを開きました。「今の自分にできること」の想いから活動が続けられています。



書籍紹介

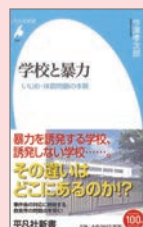


大勝志津穂、長谷川望、藤重育子、高間佐知子、小柳津久美子、手嶋慎介、宮本佳範、加納輝尚、河合晋 共著

「学生の「力」をのばす大学教育
—その試みと葛藤—」

唯学書房、2014年

大きなパラダイムシフトを迎えている大学教育の現場において、大学ではどういった人材を、どうやって育成すべきか。本書は、大学生の「力」の育成に向け、地域創造研究所人材育成研究部会メンバーの大いに模索した数年間の記録でもあります。第1部は各専門分野における学びと人材育成について多角的な視点から論じています。第2部は「地域連携PBL」を核として試みられた、学生の「社会力」育成のための実践例をまとめ、さらに第3部は各地域での取り組み事例を紹介・比較検討しています。



今津孝次郎 著

「学校と暴力—いじめ・体罰問題の本質—」

平凡社新書、2014年

「学校と暴力」という書名を見ると、目をそらしたくなるかもしれません。確かに、学校は暴力を否定し、子どもたちが和やかに学び成長する場だからです。しかし、それはあくまで理想であって、実際には校内暴力や非行、そして暴行にまで至るいじめや体罰をしばしば伴ってきました。

本書は、この30年余りの間に全国で起ったいじめと体罰の問題を追跡し、学校組織の奥底に潜む暴力の根を見据えながら、暴力を誘発する学校と誘発しない学校との違いを中心に、子どもと教師の両面から総合的に検討したものです。

就職

大学 就職内定者報告会

就職課

2014年11月18日(火)・21日(金)の2日間、内定を獲得した4年生が3年生に対して、自分たちの経験を語る『内定者報告会』が「キャリアデザイン」の授業内で開催されました。

1つ上の先輩の就職活動における失敗談や成功秘話を実際に聞いた3年生からは「早めの準備の大切さを痛感しました」「まだまだ先のことだと思っていたので



すが、話を聞いたことで危機感を感じることができたのでよかったです」など、就職活動に対して前向きに捉える意見が多くあがりました。

3年生には先輩たちのアドバイスを活かして、早期に準備、行動を始めることが期待されます。

内定者の声



念願だった消防の仕事

経営学部地域ビジネス学科4年

神谷 拓也

私は目標であった消防の仕事(尾三消防組合職員)に4月から就きます。

周りに比べて少し遅い3年生の冬から勉強を始め、4年生の7月から始まる採用試験に備えました。

中学・高校・大学とサッカー漬けの毎日でしたが、

採用試験対策では人生で一番勉強しました。

多いときには1日10時間という勉強量とサッカー部の活動も両立し、目標を達成できました。

ただ、内定をいただくまでに2つの自治体から不採用になり、3つめの自治体で内定をいただきました。

周りで公務員に合格した友人もいる中で焦りもありましたが、浪人してでもこの職に就きたいという気持ちをもって最後まであきらめずに頑張りました。

東邦高校・愛知東邦大学の7年間で得たものを社会人として活かしていきたいと思います。



三井住友銀行内定

人間学部人間健康学科4年

村松 里穂

私が本格的に就職活動を始めたのは、就職合宿があった2月からでした。そもそも大学に入学した

理由が教職に就きたかったからなので、それまでは全く一般企業に就職するための勉強もしていませんでした。しかし合宿に参加して就職に対する意識が変わり、そこから就職課の方々の力をお借りしながら出来るだけのことをやろうと努力をしました。

他の人よりもスタートは遅かったかもしれませんが、やったらやっただけの成果が出たのではないかとと思っています。「努力は嘘をつかない」という言葉がありますが、本当にその通りだと改めて実感しました。特に面接の場では努力をしてきたことや自分の精一杯の姿勢が相手に一番伝わると思います。



一宮市公立保育園内定

人間学部子ども発達学科4年

岩瀬 由美子

公務員試験を受ける為に勉強を始めたのは6月ごろでかなり遅かったのですが、参考書を買って、ア

ルバイトや予定のある日でも毎日少しの時間でもいいから勉強するように決めて行いました。

二次試験では小論文・保育実践の試験で、保育実践では他の受験生がすごく積極的に行動していたため、あえて自分は後片付けを率先したり、周りを見渡して行動できるように心がけました。三次試験の面接では、質問に上手く答えられなくても笑顔で面接官の方々の目を見て話すことを忘れないようにしました。

合格した時はとても嬉しかったので、後輩の皆さんにもぜひ公務員試験にチャレンジしてほしいです。頑張ったら頑張っただけ、合格した時の喜びは大きいです。

キャンパス短信

法人

「21TOHO教育充実事業募金」 ～ご協力に深謝～

21TOHO教育充実事業募金事務局

学園では教育環境整備、施設設備の充実、教育研究活動の奨励に取り組むため、21TOHO教育充実募金活動を展開しております。これまでも多くの方々から多額の募金を頂戴し、高校新校舎および大学新棟の建築やグラウンド新設のための資金として運用させていただいております。

また、高校8回卒業生の仲正興氏が本校を訪問された折、500万円の募金を頂戴いたしました。皆様方からのご支援に対しては、「人格教育」を重視する建学の精神に立った21世紀に有意な人材を育て、卒業生が実業界をはじめ各界で活躍することで恩返しさせていただきたいと考えております。

なお、募金についての要項ならびに寄付金の免税措置につきましては、大学・高校の各ホームページにも掲載しております。今後ともご理解を賜り、ご賛同をいただけますよう衷心よりお願い申し上げます。

大学・高校

「納涼音楽祭」吹奏楽をメインに

この行事は、東邦高校吹奏楽部の演奏を多くの方に聞いていただくという目的で始まりましたが、昨年までは大学、高校を含めた東邦学園が地域の皆さんと交流する多彩なイベントの場となっていました。

昨年8月30日(土)に開催した納涼音楽祭は、原点に立ち返り、高校と大学の吹奏楽部の演奏を楽しんでいただく大きく内容を変えました。また、地域連携の一環として猪子石中学校吹奏楽部にも出演依頼をし、吹奏楽をしっかりと楽しんでいただく催しとしました。



子ども連れの家族や年配の方まで、数多くの地域の方々に集まっていただき、盛大に終わることができました。今後も内

容を充実し、大学と高校の連携行事として続けていきます。

大学

2014年度 教員免許状更新講習の実施

教員免許状更新講習WG 齋藤 周一

本学の教員免許状更新講習も6年目となりましたが、昨年度に引き続き2期の開講を行い、8月と10・11月の期間で、本学の開講講座をすべて受講すれば教員免許状の更新が可能になるよう必修領域を2講座、選択領域を6講座の合計8講座を開講し、延べ249人の先生方の参加をいただきました。

今年度の講習の特徴は、新規講座として高校の協力を得て、化学実験室を使用した理科実験の講座を開講したことです。グループワークを取り入れた、実際の実験を行った内容は、受講者に好評だったようです。

また、8月に開講予定だった講座が台風接近で延期となり、日程を変更して実施しました。

終了時に行う受講者アンケートでは受講者の満足度も高く、本学の教員免許状更新講習も定着してきたようです。

大学

進む産学連携

大学を取り巻く環境が厳しくなる中で、産業界と産学連携を図る大学が国公立、私立を問わず増えてきています。産学連携の目的は大学の持つ知識、人材を社会貢献の一環として地域の産業界に還元し、地場産業の発展や地域の人材育成につなげるものです。まさに高等教育機関としての大学が、存在意義を示す場となっています。

愛知東邦大学は昨年11月25日(火)に愛知中小企業家同友会と、1月9日(金)には愛知信用金庫との間で産学連携協定を締結しました。

この産学連携を機会に、より一層の地域貢献を進めていきます。

クラブ活動 高校

硬式野球部

甲子園で躍動した伝統の「TOHO」

硬式野球部部長 小嶋 裕人

昨夏は6年ぶりの甲子園出場が叶いました。1回戦で日南学園に快勝し、2回戦で日本文理に2-3で惜敗。全力で戦う硬式野球部に、東邦学園の関係者全てが熱く燃えた夏を過ごすことができました。



東邦を支えていただいている皆様には、多くの寄付金や激励を賜り、心よりお礼申し上げます。近い将来、東邦の誇りをさらに全国にアピールすることを約束します。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



空手道部

秋の収穫を刈る

空手道部顧問 村田 悟

インターハイ出場35回目となり、連続出場23回、今夏の南関東総体から、早4カ月。蒔いた種子は少しずつ結実したと言える過ぎか。

10月の新人戦、女子は団体組手優勝、個人組手優勝・準優勝などベスト8の5人を獲った。個人形も準優勝。その一方男子も苦戦しながら男女6種目中5種目、次の東海新人大会に駒をすすめた。初日大雨に見舞われ、ずぶ濡れと寒さに凍えた遠征だった美濃加茂での東海大会は、男子団体組手の1種目で東京全国選抜大会出場を勝ち得た。さらに新人戦直後からの長崎国体では、男子2人、女子1人個人組手出場。櫻井隼人5位、山口華歩ベスト16の巨歩を残すことができた。

この年末年始全国の強豪校と練習試合を重ねた。怪我に苦しむ者、実力の伸長に煩悶する者等々何をか言わんや。敢えて「才能」には収斂せず、努力こそがその答えを出すと励ましたい。修練は連連。

バトントワリング部

花冠 ～全国大会出場～

バトントワリング部顧問 中橋 杏奈

12月13日に幕張メッセで行われた第42回バトントワリング全国大会に出場しました。今年度の演目は「花冠」。cobaさんの楽曲・ボラーレに合わせて40人で踊りました。今年度は、40人を超える部員が所属し、またその半数は1年生でした。技術・体力面でも例年とは違い、演技を構成していく上で、長年コーチを引き受けてくださる佐野仁美先生も頭を抱えておられました。



た。例年になく、厳しい練習が夏から続き、歯を食いしばりながら1年生は厳しい練習に食らいついていました。東海

大会では、120%の力を出し切り、見事全国大会に切符を手にし、目標にしていた2年連続の全国大会出場を果たすことができました。

全国大会では、レベルの高さに圧倒され、課題も多く残る結果となりましたが、それでも全国大会で得た経験を来年へとつなげ、念願の「金賞」目指して行きたいと思います。応援ありがとうございました。

サッカー部

プリンスリーグ東海2014

サッカー部顧問 澤田 洋平

今年度から私たち東邦高校サッカー部はプリンスリーグ東海に参戦をしました。リーグ戦の対戦相手はジュビロ磐田ユース、静岡学園、藤枝東など全国でも名だたる強豪校との対戦を年間通してホーム＆アウェイで18ゲーム行いました。リーグ戦の結果は3勝4分



11敗の9位になり、来年度は愛知県リーグへの降格が決まっていました。

結果は大きく負け越していますが、負

けた内の8試合が1点差のゲームであり、引き分けなどの試合でも勝てるチャンスは幾つもありました。過去に全国制覇を成し遂げている強豪校相手にも引けをとらない試合を展開することができたことから、ある程度の自信を得ることができました。しかし、このあと少しが足りない。そのことが大きな差になっていくのだと感じさせるリーグ戦でありました。今年度はサッカー部の活動にご理解ご協力誠にありがとうございました。引き続きご支援、ご鞭撻の方、よろしくお願いいたします。

吹奏楽部

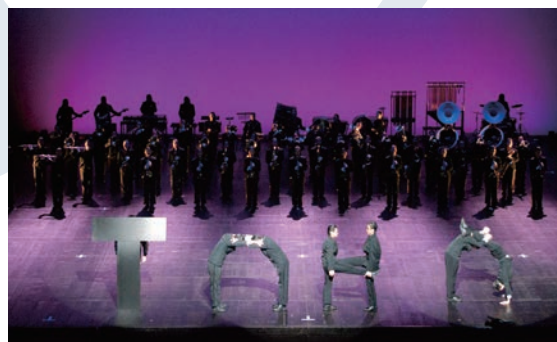
愛という名のもとに…

吹奏楽部顧問 白谷 峰人

吹奏楽部は1月10日(土)・11日(日)の2日間、愛知県芸術劇場大ホールにて第59回定期演奏会を2公演し、好評のうちに閉幕いたしました。

2005年度第50回定期演奏会から10年ぶりの2日公演でした。

年々お客様からの期待度も上がり、部員たちの演奏会にかける想いもより一層強いものとなり、2公演ともに満足いただける内容であったと確信しております。



中には1日目の公演にご来場いただき大変感動され、2日目の公演もお越しいただいたというお客様もおられました。

部員たちは1年間活動してきた集大成としてこの2公演で全てを出しつくし、新たな歴史の1ページを刻みました。

父母会を始め、1年間様々な活動を通してご支援ご協力をいただきました皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

来年度は名誉あるローズパレードに出場させていただきます。2週間(12月22日～1月5日)アメリカカリフォルニア州に出掛けローズパレードの他、ディズニーマーランドでのパレードやパフォーマンスなどにも出演します。

すでに新体制での活動もスタートしております。皆様に愛される吹奏楽部になるよう部員一同また精進していきます。応援よろしくお願いいたします。

水泳部

より良い選手を目指して

水泳部顧問 後藤 洋輔

選手たちは毎日それぞれの目標に向かって頑張っています。しかし、目標を達成するために必要なのはトレーニングだけではなく、食生活も大切です。人間の体は口から摂取したもので構成されます。朝時間がないから食べない、また、たくさん食べれば良いという食生活では日々のトレーニングの効果も薄れてしまいます。

水泳部は、相山女学園大学在学の本校水泳部のOGに来てもらい、定期的に栄養講習会を開いています。内容はスポーツ選手における望ましい食生活のあり方や、競技において十分なパフォーマンスを出すための栄養補給の取り方などを学んでいます。

競泳の世界は100分の1秒で争われる世界です。日々のトレーニングを支える食生活はバランスの良い食事を心がけ、多くの選手が自分の目標を達成することを願っています。

クラブ活動 大学

女子サッカー部

いつだって「笑顔」と「感謝」!!

子ども発達学科4年 田中 葉月

今年度女子サッカー部は、愛知県選手権優勝、東海リーグ1部昇格、インカレ出場を目標に活動し、この3つの目標を全て達成することができました。チームのひとりひとりがサッカーと真剣に向き合い、壁にぶつかりながらも心折れることなく頑張ってきました。



応援歌を一生懸命歌い全員で戦う姿勢を忘れず、ひとりひとりが「チームのために」

という気持ちを強く持って戦ってきました。辛い時間や悩む時間もありましたが、たくさん笑顔もみれました。みんなで戦って勝つことを喜んでいるときは、チーム全員がとても素敵な笑顔をしていて、そこに東邦らしさを感じています。また、今年度このような成績を残せたのは、私たちの力だけでなく、家族や友達、大学の皆様など周りの方々の応援があったからだと思います。感謝の気持ちを忘れず笑顔溢れる女子サッカー部として今後も活動していきます。温かい応援よろしくお願いたします。



硬式野球部

愛知大学野球秋季リーグ戦 (2部Bリーグ)結果報告

経営学部地域ビジネス学科2年 山東 航

平成26年度愛知大学野球秋季リーグ戦(2部Bリーグ)が昨年9月6日～10月29日の期間で行われました。横道監督の指揮の下に部員一丸となって2部Bリーグ校(愛工大、至学大、名経大、名院大、星城大)との2カ月にわたる熱戦、激闘を繰り広げてきました。



秋季リーグ戦第2部Bの成績は4勝6敗0分け第4位の成績を残すことができました。

しかしながら、春季、秋季両リーグとも非常に悔しい結果となりました。硬式野球部部員一同この冬にはもう一度基礎体力から見直し、来年の春季リーグ戦での一部昇格を目標にがんばっていきます。引き続き盛大なご声援のほどよろしくお願いたします。

男子サッカー部

自ら考え行動するサッカーへ

人間学部人間健康学科3年 村井 俊太

来年度から愛知東邦大学男子サッカー部主将を務める村井俊太です。

私たちサッカー部は、東海学生サッカーリーグ2部に所属し「東海学生サッカーリーグ1部昇格」という、高い目標を掲げ、選手、スタッフのコミュニケーションを大切に、日々練習しています。

大学サッカーの良いところは、高校サッカーと比べると自由な時間が多く、自分が今何をするべきかを考え行動します。これが、日々の成長に繋がるのではないかと思います。同時に、責任ある行動が求められ、大人として大切な「責任感」も養える場であると考えます。大学サッカーの4年間を通して、自信をもって社会に出られる人間に成長できると思います。

大学4年間でより多くのものを吸収し、プレイヤーと



しても人としても、自分をより一層磨きあげていきたいと思っています。

今後とも、ご指導、ご協力の程よろしくお願いたします。

アルティメットサークル

フライングディスク(フリスビー)を用いる競技 アルティメット

人間学部人間健康学科1年 倉知 洋平

私たちは全国大会で成績を残すために日々練習をしています。

初めはメンバーも少なくルールもほとんど分からない状態で何から始めればいいのかも分からなかった私たちが様々な方に協力してもらい、他大学の方に教わったりとまわりの支えがあり、初めての大会に出場できました。その大会が初試合であり、初大会であり全てが初めてでした。結果は残すことはできなかったのですが、私たちはそれ以上に楽しさと悔しさをもらいました。

練習は週に2日間、月曜日と火曜日に東邦高校のグラウンドを使ってやっています。

アルティメットというスポーツはあまり知られていませんがじつはオリンピックの競技になるかもしれないと言われています。最近ではCMでも取り扱ってもらえるようになってきています。

今の東邦のメンバー全員もちろん大学からはじめて、全員が成長しています。

ふざけるところは大いにふざけて、楽しむところは楽しみ、やる時はやる。これをもとに活動しています。

愛知東邦大学吹奏楽団

第5回定期演奏会に向けて

愛知東邦大学吹奏楽団団長 渡辺 未奈実

今年度も愛知東邦大学吹奏楽団は、たくさん本番の機会があった年でありました。今年は新たなことにチャレンジした年であり、14人と少ないながらも愛知県吹奏楽連盟大学・職場・一般コンクールに初めて出場しました。こうして今吹奏楽団が存在し、活躍しているのも監督である白谷さんをはじめ愛知東邦大学の教職員の皆さま、地域の方々、そして現4年生のおかげでもあります。吹奏楽団を支えてくれていた4年生はこの3月で卒業をします。そんな先輩方との最後の



演奏・演技の場として、愛知東邦大学吹奏楽団1年間の活動集大成の場として今年度も名東文化小劇場で5回目となる定期演奏会を行います。今年は5回目という節目の年ですので今まで以上に皆さまを楽しませる演奏・演技をしたいと考えています。

ぜひご来場ください。

愛知東邦大学吹奏楽団第5回定期演奏会

日時：2月15日(日) 開場17:00 開演17:30

場所：名東文化小劇場

(地下鉄東山線「上社」駅下車して
すぐ 上社ターミナルビル3F)

入場
無料

ボクササイズサークル

～B.O.Xの愉快的仲間たち～

人間学部人間健康学科3年 伊達 由美子

私たちはボクササイズサークルの～B.O.X～です。毎週、水・木曜日の週2日プレイルームで活動しています。

主な活動内容は、シャドーボクシングやミット打ちなどです。あくまでエクササイズの一環として行っているのですがボクシングをやったことの無い人でも気軽にできます。上下関係が無く、男の子も女の子も一緒になって汗を流しています。

なんと！短期間で6キロのダイエットに成功したメンバーもいます。楽しく運動をしてダイエットができるなんて魅力的だと思いませんか。

ボクササイズ以外にも、月1回の食事会や長期休みには皆で旅行に行ったり、学園祭でもお店を出したりと様々な活動をしています。去年できたばかりで人数もまだ少ないですが、皆とても仲が良くアットホームで、やる時は真剣に取り組み、遊ぶときはとことん楽しむサークルです。

大震災を教訓に活動を展開

地域創造研究所長 御園 慎一郎

地域創造研究所では東日本大震災の経験を踏まえて災害に関する研究会を継続して開催してきました。初年度は被災直後の5月からスタートし、被災の現状について学びました。

2年度目は、自分たちの町のことを知るというコンセプトのもとで名東区内のフィールドワークとワークショップを実施しました。

3年度目の昨年は、被災された方の生の声を聞くこ

とにして教育や企業経営の現場の方のお話をお聞きし、本年度も岩手日々新聞の記者の方の講演会を行いさらに防災の第一人者である福和伸夫名古屋大学教授の講演会を実施することになっています。

また、東日本大震災の被災地のみならず、世界の各地で難民キャンプや戦争、災害被災地などで医療支援活動を続けておられる桑山紀彦氏による映像と自作の音楽による公演「地球のステージ」、「地球のステージ2」を昨年、一昨年と開催し今年は第3弾として「地球のステージ3」を開催しました。

減災で克災し 地域ルネサンスを！

日 時：3月7日（土）13：00～15：00

場 所：愛知東邦大学 L棟4Fホール

講 師：名古屋大学 減災連携研究センター長

福和 信夫氏

入場無料



大学同窓会

エコキャップ運動にご協力を

愛知東邦大学同窓会邦友会事務局 稲垣 ゆかり

2014年度8月から女子サッカー部の活動を支援して、エコキャップ運動に参加しています。この運動はペットボトルのキャップを集めてワクチンにするものです。同窓会としては2013年8月から教職員の間だけで始めました。

そして、女子サッカー部も部活動の一環で集めた

キャップを持っていて、どこへどう送るのかと相談を受けたことが発端で、その収集活動を同窓会が援助することになりました。大学内にキャップ専用ケースが置いてありますので、収集にご協力ください。

この場を借りて一年間の収集数のご報告させていただきます。これまでに協力いただいたキャップは10,320個、ワクチンにすると12本分です。(キャップ860個でポリオワクチン1本分)数字で見ると僅かですが、これからは女子サッカー部と一緒にエコキャップ運動に参加していきます。引き続き、ご協力をお願いします。

高校同窓会

広報誌「東邦の和」デザイン一新 ～特集記事も大好評～

高校同窓会 東邦会事務局

同窓会東邦会(東邦商業学校・東邦中学校・東邦高等学校の卒業生にて組織)では、毎年10月に同窓会報「東邦の和」を発刊し、全ての同窓生および在校生や学園関係者にお配りしています。今回(第50号)は、役員会や広報委員会が中心となり、表紙を含めたデザインを一新。文字が大きくなり、レイアウトにも工夫を凝らし、一段と読みやすく親しみやすいよう工夫しま

した。

巻頭には、「社会で活躍する同窓生」を特集記事として組み、これもまた多くの同窓会から高い評判をいただいています。さらに現役生のクラブ活動や進学状況も詳しくお知らせするとともに、各学年の同窓会やOB会の様子も掲載しています。今後とも事務局では、学園関係者の皆様から様々な情報の提供をお待ちしております。



デザインを一新した「東邦の和第50号」の表紙

海外で活躍する 卒業生に聞く

大学の1期生で、インドネシアで会社経営をされている
杉山裕一さんにお話を伺いました。

Q 現在の仕事について教えてください。

日本に本社を持つ、製造業系の会社で現地責任者
としてインドネシアに赴任しています。主な業務は、
会社経営に携わりながら営業や新規案件立上げです。

Q 仕事のやりがいや楽しいところはありますか？



海外でも自社の
技術力や、知名度
を上げていき株式
会社スギヤマとい
う母体と共に現地
法人も成長し、グ
ループとしての体力強化を実感できる所です。

また、現地人とのやり取り、人間との関わりも興
味深く楽しみがあります。

Q 仕事で難しいと感じることはどんなところだ
か？

異国での文化の違いは、どうしても戸惑う部分が
あります。インドネシアでは、特に宗教の問題（世
界一のイスラム教徒）や国民性の違いなどで日本な
ら当たり前のことが、現地では当たり前では無いこ
とに苦勞を感じます。

Q 仕事で心がけていることはどんなことですか？

私たち、外資はあくまでインドネシアという異国
で仕事をさせていただいているという感謝の気持ち
を忘れないこと。雇用側としては私たち日本人側が
優位なんです、決して驕らず相手のことも受け入
れ、互いに信頼しあいリスペクトすることです。

Q 大学時代の思い出は何ですか？

大学時代は4年間野球部に在籍しました。当時の
袴田監督、杉谷部長にはお世話になりました。未熟
なチームでしたが熱心にサポートしていただき、練
習後の炊き出しなども思い出に残っています。



杉山裕一さん（旧姓 玉野）
東邦学園大学（現 愛知東邦大学）1期生

Q 先生に言われて心に響いた言葉は何ですか？

2012年のインドネシア赴任前に、杉谷先生のと
ころにご挨拶に伺った時、「お前なら大丈夫だよ、今
まで見て感じたことを信じて正直にやれば周りはず
いてくるから。何かあったらいつでも相談に乗るか
ら、体には気を付けて頑張ってこい。」

「お前なら大丈夫だよ」の一言で背中を押され、
自信ができました。

Q 社会人としての夢や目標は何ですか？

海外進出というのが、一つの目標でありました。
今は、スギヤマで働くスタッフ皆がスギヤマの制服
を着ていることに心底満足してもらえるような会社
づくり、人づくりが私の目標です。

貴重なお時間をありがとうございました。ご活躍を
お祈りしています。



東邦学園同窓生 特別入試

愛知東邦大学・東邦学園大学・東邦学園短期大学・東邦高等学校の卒業生の子、または愛知東邦大学在学学生・
卒業生の兄弟姉妹に対して入試を実施します。

特典として愛知東邦大学の入学金が半額となります。

一般入試と比べ条件も有利です。ぜひこの機会にご利用ください。

【Ⅲ期 出願期間】 2015年1月30日(金)～2月18日(水)

【お問合せ】 愛知東邦大学 入試広報課 電話：052-782-1600(直通)

TOHO gallery 東邦ギャラリー

高校 吹奏楽部定期演奏会 (関連記事 15 ページ)



高校 卒業制作展 (関連記事 6 ページ)



大学 女子サッカー部インカレ出場壮行会 (関連記事 16 ページ)



大学 愛知東邦大学杯少年サッカー大会



大学 子ども発達学科
よもぎ幼稚園でワークショップ開催



大学・高校 納涼音楽祭 (関連記事 13 ページ)

